

インド：大規模太陽光パーク建設計画が進展¹

新エネルギー・国際協力支援ユニット
新エネルギーグループ

本年6月、新・再生可能エネルギー省（Ministry of New and Renewable Energy: MNRE）は、年末までに全国10数箇所で大規模太陽光パークの建設を開始すると発表した。太陽光パークは500MW以上の太陽光発電所を建設できる用地とインフラ（道路、水、通信、変電所）が整備された太陽光発電団地で、中央政府が地方政府と協力して建設し、発電事業者にリースされる。

発電所建設用地の取得、整備には時間とコストが掛かり太陽光発電の導入が遅れる一因となっている。このため政府は太陽光発電推進策の一環として発電事業者に代わって大規模太陽光パーク建設するスキームを立案し、昨年12月、全国25箇所以上に大規模太陽光パーク（総発電容量は約20GW）を5年間（2015-2019）で建設する計画を発表した²。

今般建設開始が発表された太陽光パークは、ラジャスタン州（1000MW x 2箇所、680MW x 1箇所）、アンドラ・プラデシュ州（1500MW x 1箇所、1000MW x 1箇所）、マディヤ・プラデシュ州（750MW x 2箇所）、カルナカタ州（2000MW x 1箇所）、パンジャブ州（500MW x 2箇所）などに建設されるもので、その立地容量は合計約13GWとなる。これらの太陽光パークの詳細建設計画は完成し、いくつかの太陽光パークはMNREの審査を通過して準備段階から建設段階に進んでいる。

大規模太陽光パーク建設計画はその実現に向けて前進しているように見えるが、克服すべき根本的問題点がある。太陽光パークの建設と運営は中央政府と地方政府の再生可能エネルギー担当機関が設立する事業体によって行われるが、資金調達が大きなネックとなっている。そのため、民間会社の参加が期待されているが、現時点ではそのようなケースは殆どみられていない。

このような状況下、ラジャスタン州の取り組みは例外的な存在となっている。本年6月、ラジャスタン州政府はインドの複合企業、Essel Group³と太陽光パーク共同事業会社を設立した。州政府は土地を提供し、Essel Groupは資金手当て、建設・運営を行う。共同事業会社はラジャスタン州の2箇所に合わせて5GWの立地容量を持つ太陽光パークを建設するとしている。

¹ 本稿は平成27年度経済産業省委託事業「国際エネルギー使用合理化等対策事業（海外における再生可能エネルギー政策等動向調査）」の一環として、日本エネルギー経済研究所がニュース等を基にして作成した解説記事です。

² <http://pib.nic.in/newsite/pmreleases.aspx?mincode=28> 参照

³ <http://www.esselgroup.com/group-profile.html> 参照

ラジャスタン州は太陽光発電の導入に積極的で、導入量はグジャラート州に次いで 2 番目に多い。同州政府は、今後 5 年間に 25GW の太陽光発電を導入する目標を設定した⁴。ラジャスタン州政府は大規模太陽光パークの建設は太陽光発電の導入に有用であり、そのため、太陽光パーク事業を民間の参入を得て推進しようと考えられる。

ラジャスタン州のこの取り組みが今後、他の州にどのように広がっていくのかが注目される。

お問い合わせ : report@tky. ieej. or. jp

⁴ 本年 6 月、国家ソーラーミッションで定める導入量（2022 年）を 20GW から 100GW へ大幅上方修正することが閣議決定された。ラジャスタン州の導入目標値はこの国家目標に対応するもの。ラジャスタン州政府のこの導入目標設定に対し Adani Power、Reliance Power、SunEdison、Azure Power などの大手発電事業者は、同州に 5 - 1GW の太陽光発電所を建設する計画を発表している。